

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079100147		
法人名	有限会社 弘洋		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	福岡県みやま市高田町海津1461番地2 (電 話) 0944-62-6151		
自己評価作成日	平成 23 年 10 月 24 日	評価結果確定日	平成 23 年 12 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所は通りに沿う位置にあり、濃茶色の和洋風な建物も少し色あせたが、自然にとけこみ落ち着いた雰囲気をかもし出しています。青空の理念を職員全員が理解し、笑顔で温かい、笑顔のある家族を目指しケアに取り組んでいます。青空独自で作り上げた、青空体操（リズム体操）や心身機能活性運動（温熱療法・フィンガースポーツ等）を行い、体力維持及び認知症進行予防に努めています。又、利用者、職員共々「今を大切にし、毎日、笑顔で過し、利用者一人ひとりの気持ちになり、その人らしく充実した人生を送られる様に私達職員一同支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成23年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は住宅地に位置し、玄関周りには草花が植えられ、近隣に溶け込んでいる雰囲気がある。毎日、リズム・青空体操を行い、2日に1回は温熱療法を行う等、体力維持と認知症進行の予防に努めている。24時間対応医療連携体制で日常の健康管理、緊急時の対応をしている。利用者が座られる椅子に杖置きや足のせを設置し、手作りの物等も使用し、工夫しながら利用者の安全やサービスの質の向上に職員全員で取り組んでいる。利用者への安全への配慮や穏やかな対応、笑顔でさりげない気配り等、職員の温かさが感じられる家庭的な雰囲気のある事業所である。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は朝礼やミーティング時に理念を復唱し、具体的なケアについて意見の統一を図り、実践に向けて取り組んでいる。	住み慣れた地域での安心した暮らしを支えるための柔軟な支援を理念に掲げ、全職員で理念を共有し、意識づけのために唱和し、実践に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等の施設行事への声かけ（パンフレット配布）や小学校との交流会や地域行事（もぐら打ち・御田植）ボランティアを受け入れたり、又、散歩時には挨拶をかわし、目についたゴミを拾ったり、時には近所の家に寄せてもらったりすることもあり、積極的に地域との交流が持てるように努めている。	隣近所の方とは日頃からごみ出しや散歩時にあいさつを交わしたり、また、住民の方が事業所にお菓子を持って話に来て下さる等隣近所とお付き合いを大切にしている。地域行事には利用者と職員が一緒に出掛けている。夏祭り・敬老会等の事業所主催の行事時には地域の方の参加がある。中学生ボランティア体験学習・介護職員研修実習を受け入れて交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	知人や地域の人からの認知症の相談や介護の仕方を尋ねられる事もあり、その都度、介護の仕方等を支援している。又、運営推進会議の中で市役所職員や民生委員の方に事例を通してケアの実践報告をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的（２ヶ月に１回）に開催し、現状や今後の活動計画・外部評価等を報告し、意見やアドバイスをもらっている。委員より看取り・事故対策等の意見もあり適切に対応し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は２ヶ月に１度開催している。委員から意見や要望等が出され、サービス向上に活かしている。また、事業所主催の行事への参加を呼びかけており、住民の参加がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進・ＧＨ協議会等に現状を報告・連絡を取り、行事（夏祭り・敬老祭）への参加があり、利用者の家族との話し合いや青空での体操や心身活性療法を体験してもらったり、レクリエーションへの参加や事例発表等で青空でのケアの取り組みを見て頂き、その後の連絡や相談にのって頂いている。	市の担当職員と随時話し合いや相談等を行っている。また、事業所の行事や家族の話し合い等にも市の担当職員に参加していただいている。市の職員に運営推進会議で権利擁護の資料を持参してもらい、家族・利用者・委員・職員に勉強会をしてもらう等協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間、職員が一人になる時間のみ（１９：００～７：００）施錠しているが、その他は、いつも開いている。原則として身体拘束は行わない。やむを得ず行う必要のある時は身体拘束マニュアルにのっとり行っている。全職員が理解し行っている。	事業所は身体拘束に関する勉強会を定期的に実施し、職員の共有認識を図っている。職員は利用者のその日の気分や状態を把握しており、外出されそうな時はさりげなく声をかけ一緒に歩くなど、職員同士が連携をとりながら支援している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだ職員による園内報告や日常業務の中でのケアの仕方に目を配り、声かけがきつかったり荒くなる時は、その場を交代したり注意し合っている。職員のストレスや悩みも虐待の一因となるので、それを除くように配慮している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内・園外研修にて学んだ内容を他の職員へ伝え、全員の理解統一を図っている。今回、利用者の後見人の利用があり、毎月の来所にて利用者の状態把握や支払いをされる事になり、その仕組みが学べる。	職員は、制度に関しての内部・外部研修で学ぶ機会がある。みやま市が主催する成年後見制度の研修に参加している。制度について利用者・家族等に利用開始時に説明しており、対応が必要と思われる利用者を支援に結びつけている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や料金の改定加算の説明をわかりやすく行い、疑問がある際は、来所時や電話での問い合わせを受け理解・納得を図っている。酸素機械使用時は事前に家族の了解を得ている（料金・状態）。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の支払い時や家族会・運営推進会議での意見を伺い、言葉にしにくい要望は個人別のふれあい日記に書くように促す等の配慮をしている。	利用者本人や家族等は運営推進会議に参加し、意見や思いを述べるができる機会がある。来訪時等、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを配慮し、意見等を聴いて運営に反映させるように努めている。また、利用者一人ひとりの日記帳を作成し、家族等の意見や思いを書いていただいている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度意見を聞く機会を持っている。（職員会議・ケア会議等）他の施設でのやり方のいい点や生活の中での経験上職員より報告してもらい、出来ることは取り入れるようにしている。	管理者は職員会議やケア会議等の他、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、個別にも職員の意見や思いを聴く機会を設けている。外部研修を受講した職員の提案でリズム・青空体操を取り入れたり、身体介助の必要な利用者の居室にのれんを掛ける等職員の意見を運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修希望や資格取得に対しては、勤務や手当の面で優遇し、研修費用・交通費の支払い、又、希望休はなるべく希望が叶うよう調整している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては、公表性を持ち、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。一人ひとりのキャリアに留意し、いきいきと働きながら社会参加や自己実現が出来るように図っている。	職員の採用は、性別や年齢を理由に排除していない。事業所は職員の研修参加・資格習得を推進し、職員が能力を十分に発揮できるように支援している。また、向上心を持って安心して働けるように職場環境、条件の整備に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、人権教育・啓発活動に取り組み、外部研修・職員の周知を図り勉強会を実施している。（テキスト・パンフレット・研修記録がある）研修記録は、全職員が回覧している。	職員は人権教育に関する外部研修に参加し、参加できなかった職員に伝達研修を行い、全職員で共有化、意識化している。基本的人権が尊重されている環境であり、啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、全職員が日常的に学ぶ事を推進している。外部研修は職員に紹介しており、受講者が伝達講習を行い、全職員が共有できるようにしている。又、段階的に資格取得が出来るように配慮している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者ネットワークに加入し、研修会や会議に参加している。夏祭り時は、他の同業者との交流を持つ等サービスの質の向上に努めている。福岡県高齢者グループホーム協議会・認知症高齢者グループホーム地区Eブロック・市のグループホーム協議会・グループホーム連絡協議会加入している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活の情報や状況をより詳しく得られるようにし、今、何が必要なのかを考え、本人、家族の要望をしっかり聞き、ケアプランにも生かし、まずは、ホームでの生活に早く慣れ、安心して暮らせるように、又、職員と顔なじみの関係を作れるようにコミュニケーションを図っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今回、入所された利用者の家族は遠方にて来所できず、書類面や契約書の取り交わし等、お会いする事が出来ず、電話にて郵送にて書類のやりとりで入所状況の様子や家族の不安等をうかがう電話をたびたび行い、信頼関係が築けるように配慮した。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	入所申し込みに来所された時の情報の中でグ ループホームの空きがない時は他の施設の紹 介及び当事業所の関連施設への入居を勧めて いる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	利用者さんは、特に職員と一対一での散歩で 入浴時に人生の苦労話や経験を話される事が 多く、私共は、より聞き役になり、時には、 人生の先輩として相談し助言を頂く事もあ る。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	当ホームでは遠方の方を除き、利用料の支払 いを毎月来所して頂くようにしており、又、 衣替えやタンスの入れ替えのお願いや日々の 暮らしの様子を請求時にお知らせする事で ホームと利用者さん家族とのつながりを持続 できようとしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	家族の意向で近所の方がホームへ面会に来ら れる事が少なかったが（ホームでの生活に慣 れるため）最近では、ホームでの生活にも慣れ 家族と共に墓参りに行かれたり、家族面会後 も不安な様子は見られない。外出ドライブに て近所まで行くが、場所の理解なく懐かしむ 様子ない。	職員は入居時の生活情報等で、利用者の馴染 みの人や場所を把握している。家族の協力で 地元の行事に職員と一緒に出掛けている。知 人が来訪する時は、事業所の行事等にお誘い の声かけや電話や手紙での連絡を取り持つ 等、利用者とのつながりが継続できるように 支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同志の席を近くにし、時には 二人でゆっくりお茶を飲みながら会話の出来 る場所をつくり、側で職員が見守りながら二 人の時間を持つことで、穏やかでゆっくりと した時間が過ごせている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	サービス利用の終了、ホームでの看取りの方 なので、本人に対してのフォローはないが、 家族よりデイサービスの利用について相談が あり、当事業所の居宅のケアマネジャーやデ イサービスの相談員に引き継いぐ等してい る。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人より、それまでの暮らしや好み、性格等の情報を伺い、時には本人へ直接「どうしたらいいですか?」と尋ねるとはっきり「こうしたい」と言われる利用者もいれば、言葉に出せず表情や仕草で読みとる事が必要な利用者もいる。会議やケアカンファ・申送り・記録を利用し、本人の視点に立って話合っている。	職員は日々の関わりの中で寄り添い、ゆっくりと思いを傾聴するように努めている。意思疎通が困難な利用者には、生活歴や趣味等をご家族から情報を聴取し、目の動きや表情、しぐさ等からその思いや意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、居宅のケアマネジャーや医師、利用していた事業所、家族による入所時アセスメント表より情報提供を頂く他、寄り沿い、問いかけ、言葉を引き出すようなじみの関係を築きながら関わりを持てるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態が日によって変化される方もあり、臨機応変なケアが求められる。意欲的に自分から動き声かけされる方は限られており、何気なく洗濯物を山盛りにしたカゴを目につく所に置き、「たたまやんとやる。すうか」と言われるのを待ったり、まったく手足の動かない人には歌や声かけ、タッチング等でふれあい表情を読み取っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に本人の有する能力や問題点、本人の意向、本人からの言葉をメモに書いてもらい、総合的にケアプランを立て、ケアカンファを行って意見を聞き、仕上げていくようにしている。又、ケア会議（1回／月）にて先月のニーズに対してモニタリングを行って評価している。	介護計画は職員が意見を出し合い、本人・家族・医師の気づきやアイデアを反映しながら、一人ひとりのその時点にそった個別具体的な計画を立てている。計画の見直しを6ヶ月に一回、又は状態変化に応じて随時、介護計画の見直しをしている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録をや介護経過に毎日記入しており、月末にまとめモニタリングし見直している。要望や状況変化があればサービス内容の変更等計画を見直している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームでの一日の大まかな流れはあるが、天気が良くて、ドライブ日和だと思われる時は、入浴や体操を中止し花を見に行ったり、外食したりしている。全員が外出できない時もあり、その日の体調や職員の勤務を考慮し実行している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や市役所職員からは、運営推進会議にて（1回／2ヵ月）相談や報告を行って、意見交換しており、竹海小学校6年生とのふれあい交流会やボランティアによるケアビクス等を楽しみにされている。ヘアークットは、女性らしく、身なりを整え生き生きされている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には、往診して頂いている。専門的な皮膚科や眼科への受診付き添いは、家族に協力頂くようお願いしている（主治医より、紹介状を書いて頂いている）。	かかりつけ医については24時間対応医療連携体制をとっているため、本人、家族等へ入居時説明し、同意を得て、協力医療機関としている。受診時の介助の方法や伝達の方法については話し合い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時には、利用者の状態変化があれば報告・相談している。又、記録に残し、経過を見守る。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は見舞いに行き、家族・医療機関と話し合いを行い、早期退院に向けて連携を図っている。契約書では、2週間以上の空室は退所とうたっているが、その家族の状況・利用者の状態により相談し合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時は看取りの対応指針・同意書を書いて頂いている。年に1回の家族会議時は意向確認書を説明し、記入して頂いている（あくまでも、現在の考えとして）。状態変化時は、その都度、家族・主治医・ホーム職員で話し合っている。その為、緊急搬送からホームでの看取りに家族の気持ちが変わられる事が多くなってきた。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針があり、事業所が対応し得る最大の支援方法について利用開始時に説明している。人生の最期の時を迎えられるとき再度説明し、利用者や、家族等の意向を大切にしながら関係者で話し合っ合意を図り、全員で方針を共有し支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、実践できるよう日々確認している。園内・園外研修を行い、AED・転倒・応急手当等について学んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難時の避難場所の確認、緊急連絡網、火災時のマニュアル確認、スプリンクラーの設置、消火器の扱い方確認、避難訓練の実地を行っている。消防署の協力による合同避難訓練を年に2回行っている。又、防災頭巾を作成し使用している。	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに消防署の協力を得て避難訓練を行っている。非常用食料・飲料水・備品、寒さをしのげるような物品等を準備している。	事業所の利用者や職員だけの訓練ではなく、運営推進会議等で地域住民の参加・協力を呼びかけ、地域住民の参加を得ながら避難訓練をしてほしい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等で全職員の意識化を図り、声かけや日常的にプライバシー確保を心がけケアしている。利用者の方々は人生の先輩であり目上の方なので、常に意識をし接している。職員の声かけの接し方で利用者の方々の返答や行動が変化する。	職員は、利用者を入前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目だたずさりげない言葉かけに配慮している。又、日々の関わりの中で管理者や職員同士で気づきがあった時は、注意をし合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、一人ひとりの能力に合わせ本人に決めて頂くように声かけをしている。又、言葉では意思表示が出来ない場合は表情やしぐさ等で読み取って支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調や気持ちに沿って支援している。散歩や趣味、おしゃべり、歌等とその日の状態や思いに配慮し支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヵ月に一回、散髪してもらい、本人の希望でカラーをされる方もいる。一人ひとりの個性や好み（色柄）、希望に応じ服装等の身だしなみを個別に支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、食事の下ごしらえ等を共に行い、食事が楽しみなものになるよう支援している。食材の皮むき、食器洗い、食器拭き、トレー拭き、台拭き、献立のアドバイス、下膳等、その人のできる力が生かせるよう配慮して頂いている。	食事が楽しみなものになるよう献立の希望や料理の調理の仕方を聞き、職員と利用者が一緒に準備・食事・片付けをしている。その時々により音楽を流したり話題作りをしながら、又、さりげなく介助しながら大家族での暖かい雰囲気の中で食事をしている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水摂取量の記録は全利用者分ある。一人ひとりの状態や嗜好に配慮し、職員が作成している。又、主治医によるアドバイスももらっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけの必要な方、手渡しの方、うがい薬をされる方、歯磨きへの理解がない方、全介助の方、部分義歯の方と、利用者に合わせた声かけや支援をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導、パッド等の交換介助を行い、その方なりのリズムを作りオムツ使用を減らす様に努めている。排泄の失敗があっても、傷付けないような声かけを行い、不安や悲しみをなくすようにしている。又、排便への理解なく抵抗のある場合は、2人介助やチームプレーで支援している。	職員は一人ひとりの排泄のサインを把握しており、さりげない声かけを心がけ、排泄の自立にむけた支援を行っている。また、尿意のない利用者には時間を見計らってトイレで排泄出来るよう誘導している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や食物繊維の多い野菜を主に献立をたてて運動を行い排便コントロールを図っている。又、排便の有無を把握し、便秘時は、その人にあった下剤を主治医の指示により服用し、便の状態（回数や軟さ）を確認している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望に合わせ柔軟に対応し、入浴を楽しめるように支援している。また、利用者の体調等によっても臨機応変に入浴時間等の変更を行い、湯の量もたっぷり使用し常にシャワーで湯をあふれさせ、次の人の入浴時でも綺麗なお湯を楽しんでいただいている。入浴拒否の利用者には、タイミングを図り、再度声かけしたり、チームプレーにて支援している。	大まかな入浴の設定はあるが、利用者の希望にあわせて、毎日いつでも柔軟に入浴が楽しめるよう支援している。入浴を拒否される場合は、声かけする職員を代えたり、タイミングを図ったり、言葉かけの内容を変えたりして入浴支援をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	19時には休まれる方、21時頃迄テレビを楽しむ方、いつも最後に休まれる方、布団で休まれる方と個々の時間に合わせ、冬場の寒い時は湯たんぽで布団の中を暖めたり、夏はクーラー等で居室を適温にしたり、照明の明るさも個々により調整している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週土曜日に薬剤師による個々の服薬に対しての細かいアドバイスや説明があり、副作用等についても気軽に聞ける関係にあり、薬の説明書は個々のつづりにて全職員がいつでも目を通し把握している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者の出来ることや得意なことを把握し、手芸・スケッチ・うつし絵・塗り絵をされる方、料理の下ごしらえ等の家事をされる方、毎日新聞を読まれる方音楽の好きな方、散歩・体操・外出（外食）・ドライブ等楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態や希望に応じて散歩・ドライブ・買い物・季節折々の花見や温泉に出かける等、また、家族との外出と日常的に戸外に出かけられるように支援している。	天気や利用者の体調や希望に応じて、ほぼ毎日の散歩を行い、ドライブ・外食・買い物等、戸外に出かけられるよう支援に努めている。利用者が普段行けないような場所は家族の協力を得ながら外出の支援をしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて預り、外出時は本人に手渡し、自由に使って頂く方もいるが、要望がある時は、事務所に預かっている。もしくは、説明し安心される方もいる。事務所に預かっている方は家族等と相談し同意を得ている。又、使用時は、領収書を添えて家族に知らせている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日の御礼の電話や手紙を書かれるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や散歩でとってきた草花を飾ったり、個人のタオルを常時準備して使用してもらったりコップに名前を記入し、混乱のないように努める。室温は動いている職員に合わせるのではなく、ホールで過ごす利用者に合わせている。	玄関には小物を飾りホールにはソファアが置かれ、壁面にはイベント時などの写真や利用者と職員の共同作品が飾られている。居間兼食堂の共用スペースは、利用者・職員が一望出来て、利用者にとってくつろげ談笑の場となっており家庭的である。また、不快を招く色や音、光などにも配慮され、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士でソファにてくつろぐ時間を持ってもらい、居室への出入りは自由で、楽寝したりタンスの中を整理したり、家族との写真を眺める等、思い思いの行動に付き添ったり見守りをしている。昼間はホールでの生活が長く、居室への引きこもりを防ぐ為、居室には鍵やテレビはなく、ホールにて一緒に見るようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスはホームで準備している。小さいタンスの持ち込みや、鏡・衣類・ハンガーを必要な人は持ってこられる。本人と相談しながら使いやすいように設置し、ベッドやポータブルトイレの位置、タンスの向き家族の写真等心地よく生活できるように工夫している。	壁には家族の写真が飾られ、タンス・洋服掛け・鏡台・時計・携帯ラジオ等利用者の馴染みの物が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内では手すりを設置し、自由に往来できる。台所は対面式でホール内全体が見渡せ見守ることができる。又、座位の不安定な方には固定椅子やクッション・体の小さな方には足載せ台、個人用の杖入・目の不自由な方にはトイレの目印を大きくして見やすくしている。夜間は特に安全を優先し、居室の小窓からでも見守りができるような工夫をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない